

# 2

## 電源の入れかたと切りかた

本章では、パソコン本体の電源の入れかたと切りかたについて説明します。

<b>1</b>	電源の入れかた .....	50
<b>2</b>	初めて電源を入れるときは .....	51
<b>3</b>	電源の切りかた .....	68
<b>4</b>	省電力機能について .....	71

# 1 電源の入れかた

初めて電源を入れた場合は、システムのセットアップが始まります。

🔧 セットアップ方法 ⇨ 「本章 2 初めて電源を入れるときは」

周辺機器を接続して使用する場合は、本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

🔧 周辺機器の電源の入れかたについて ⇨ 『周辺機器に付属の説明書』




お願い

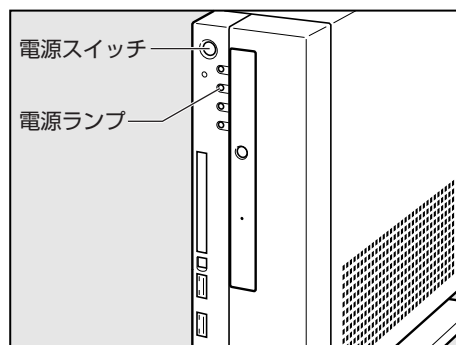
・モジュラーケーブル、LAN ケーブル、増設メモリ、プリンタなどの周辺機器は、システムのセットアップが終了してから接続してください。

🔧 システムのセットアップについて ⇨ 「本章 2 初めて電源を入れるときは」

## 1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

## 2 本体前面の電源スイッチ を押す

電源ランプ（本体前面の緑色のランプ） が点灯します。本装置は自動的に電源 ON 時にセルフテストを実行します。



メモ

・パソコン本体が起動すると、自動的にパソコン内部のテストを行います。これをセルフテストといいます。セルフテストによって、エラーが発見される場合があります。

🔧 セルフテストでのエラーの対処方法について ⇨ 「付録 3 エラーメッセージ」

・起動可能な CD をセットしたまま電源を入ると、ハードディスクドライブからシステムが起動しません。

CD を取り出して、もう 1 度電源を入れてください。

## 2 初めて電源を入れるときは

パソコン本体の電源を初めて入れるときは、Windows が使えるようにするために、「Windows セットアップ」という操作が必要です。

1 度 Windows のセットアップをすれば、以降は、電源を入れるとすぐに Windows を使用することができます。

本製品には、次のモデルがあります。

- ・ Windows 98 モデル
- ・ Windows 2000 モデル

セットアップの方法はシステムによって異なります。ご購入のモデルを確認のうえ、システムに応じたセットアップ手順をご覧ください。



### 注意

- ・ マウスとキーボードが接続されていることを確認してください。接続していないと、セットアップを行うことができません。
- ・ 増設メモリや PC カードを取り付けたり、プリンタなどを接続していると、正しくセットアップできない場合があります。ディスプレイやマウス、キーボード以外の周辺機器の取り付けや接続はシステムのセットアップ終了後に行なってください。
- ・ セットアップを行うときは、LAN ケーブルは接続しないでください。LAN ケーブルが接続されていると、ネットワークの設定が既定値 (default) のままネットワークに接続してしまうため、ネットワークに障害をもたらす場合があります。
- ・ システムのセットアップ中は、絶対に電源を切らないでください。
- ・ やむをえない場合以外は、セットアップ中にキャンセルしないでください。正しくセットアップできない場合があります。





お願い

- ・ ケーブル類が確実に接続されていることを、もう 1 度確認してください。
- ・ セットアップを行わないと、あらかじめインストールされているシステム (Windows 98 / 2000) やアプリケーションを使用することはできません。
- ・ 「Windows セットアップ」の動作中は、電源を切らないでください。



メモ

- ・ 15 分以上キーを押さない (マウスの操作も含む) 場合、省電力機能がはたらき、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。電源ランプ  が点灯している場合は **[Shift]** キー、電源ランプ  が点滅している場合は電源スイッチを押すと画面に表示されます (4 秒以上電源スイッチを押し続けると、電源が切れますので、短く押してください)。
- ・ Windows 98 モデルの場合、起動に時間がかかることがあります。これは出荷時に LAN の設定がされているためであり、故障ではありません。
  - 回避方法
    - ➡ セットアップ終了後、[スタート] メニュー - [はじめに] - [リリース情報]
- ・ カスタム・リカバリ CD やリカバリ CD でシステムの復元を行なった場合にも、「Windows セットアップ」の作業が必要です。

# 1 Windows 98 のセットアップ

Windows 98 のセットアップでは次のことを行います。

- ユーザー情報の登録  
名前とふりがな（省略可能）を登録します。
- マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書（Windows のライセンス）  
マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書の内容をお読みになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、[同意する] を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- 日付と時刻の設定  
[日付と時刻のプロパティ] 画面の [日付と時刻] タブで、パソコンの日付と時刻を設定します。セットアップ後に変更することが可能です。

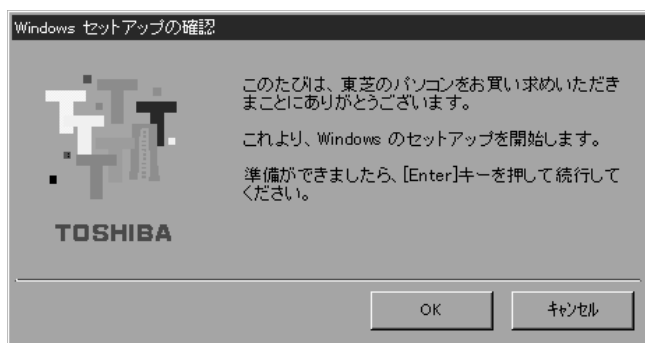


お願い

- ・ Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。  
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。  
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守が受けられなくなります。

## ● セットアップの操作手順

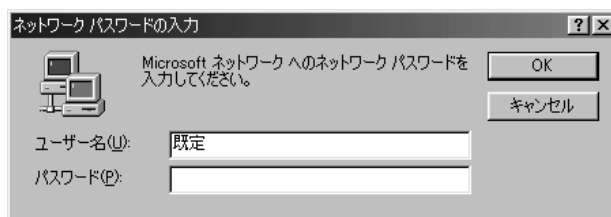
初めて電源を入れると、[Windows セットアップの確認] 画面が表示されます。



### 1 [Enter] キーを押す

Windows のセットアップが開始されます。

パソコンが再起動し、[ネットワークパスワードの入力] 画面が表示されます。



## 2 ユーザー名を入力する

[Shift] + [Tab] キーを押すと、カーソルがユーザー名に移動します。

[Delete] キーを押して「既定」を削除します。

ユーザー名はひらがな、漢字、半角英数文字が使用できます。

ひらがなや漢字を入力するには、MS-IME を起動します。MS-IME とは、かなや漢字を入力するための日本語入力システムです。[半角/全角] キー（MS-IME2002 の場合）または [Alt] + [半角/全角] キー（MS-IME98 の場合）を押してください。



・ ひらがなや漢字の入力のしかた

標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

例：“なかた” または “中田” と入力する場合

1 [N][A][K][A][T][A] とキーを押す

“なかた” と表示されます。入力ミスをした場合は、[BackSpace] キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、[Enter] キーを押す

“なかた” で確定されます。

漢字に変換する場合は [Space] キーを押し、目的の漢字が表示されたら、[Enter] キーを押す

[Space] キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。[Enter] キーを押すと、選択した漢字で確定します。

## 3 パスワードを入力する

ユーザ名の入力が終わった後、[Tab] キーを押します。

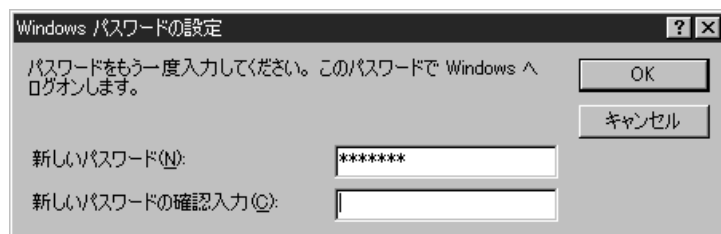
パスワードには半角の英数文字および記号を使用することができます。4～8 文字を目安に設定してください。

入力したパスワードは「\*\*\*\*」で表示されます。

パスワードは間違いのないように入力してください。入力ミスをした場合は、

[BackSpace] キーを押して入力ミスした文字を削除します。パスワードの入力が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。

[Windows パスワードの設定] 画面が表示されます。



## 4 登録したパスワードをもう1度入力し、[OK] ボタンをクリックする [ようこそ] 画面が表示されます。



入力したパスワードが間違っている場合は、メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてメッセージを消した後、パスワードをもう1度入力し直してください。



メモ

・登録したパスワードを正しく入力できない場合

- 1 [Delete] キーで [新しいパスワードの確認入力] のパスワードをすべて削除する
- 2 [Shift] + [Tab] キーを押す  
カーソルが [新しいパスワード] に戻ります。
- 3 [Delete] キーを押して、いったんパスワードをすべて削除する
- 4 新しいパスワードを入力する
- 5 [Tab] キーを押す
- 6 [新しいパスワードの確認入力] に同じパスワードを入力する
- 7 [OK] ボタンをクリックする

## 5 [Esc]キーを押す

MS-IME のチュートリアルに進み、入力の練習を行う場合は[M]キーを押してください。  
入力の練習を行わなかった場合、または練習が終了したあとに、[Windows 98 へようこそ] 画面が表示されます。



## 6 名前とふりがなを入力する

名前は必ず入力してください。ふりがなは省略できます。ふりがなを入力するには、名前を入力した後、[Tab]キーを押します。

ひらがなや漢字を入力するには、日本語入力システム (MS-IME) を起動します。

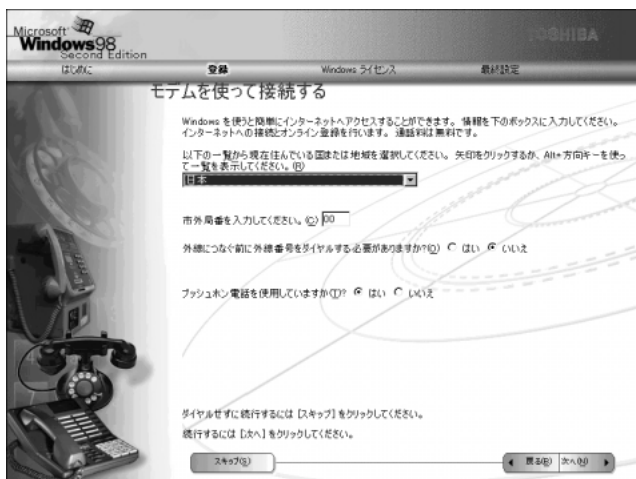
[半角/全角]キー (MS-IME2002 の場合) または [Alt] + [半角/全角]キー (MS-IME98 の場合) を押してください。

## 7 [次へ] ボタンをクリックする

[モデムを使って接続する] 画面が表示されます。

ここではインターネット (モデム) への接続は行いません。

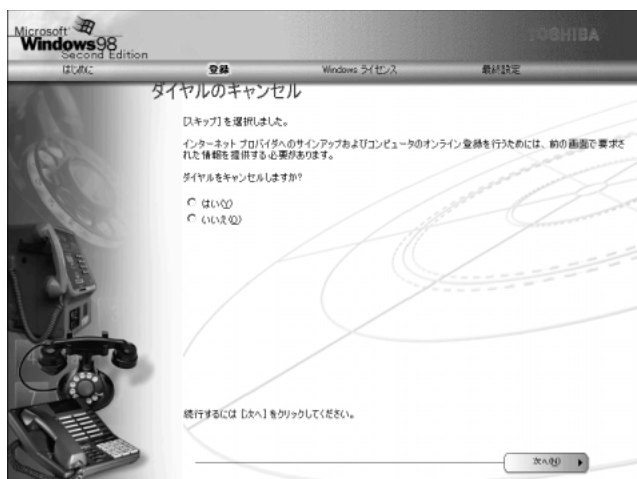
インターネットへの接続とオンライン登録は、セットアップ終了後に行えます。





## 8 [スキップ] ボタンをクリックする

[ダイヤルのキャンセル] 画面が表示されます。



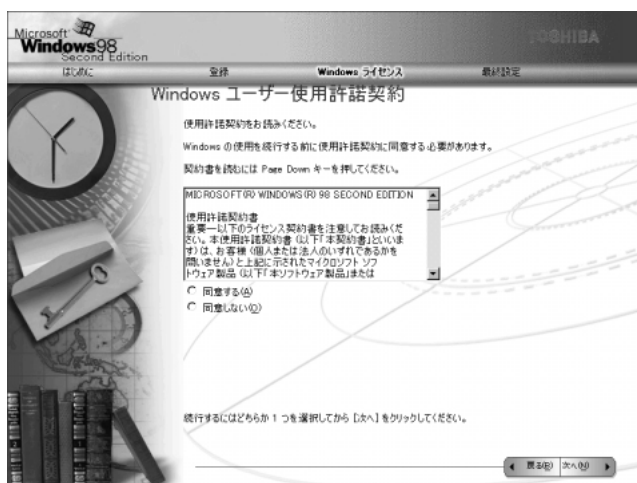
## 9 画面の [はい] をチェック (左側の○印をクリック) して、[次へ] ボタンをクリックする

[Windows ユーザー使用許諾契約] 画面が表示されます。

契約内容を、必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックするか、[PageUp]キー／[PageDown]キー（109A キーボードの場合）、または[Fn] + [PgUp]キー／[Fn] + [PgDn]キー（テンキー付き小型キーボードの場合）を使って画面を動かしてください。

なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。





## 10 画面の【同意する】をチェック（左側の○印をクリック）して、【次へ】 ボタンをクリックする

【セットアップの完了】画面が表示されます。



## 11 【完了】 ボタンをクリックする

【日付と時刻のプロパティ】画面が表示されます。



## 12 【日付】 と【時刻】 が正しく設定されているか確認する

正しく設定されていない場合は設定してください。設定後、【適用】 ボタンをクリックすると、日付および時刻の設定が確定され、パソコンの時計が動作します。

## 13 【タイムゾーン】 で「(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌」が選択されていることを確認する

「(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌」が選択されていない場合は、▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

## 14 [閉じる] ボタンをクリックする

[日付]、[時刻]、[タイムゾーン] を変更した場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。  
Windows のセットアップが終了し、Windows のデスクトップ画面が表示されます。



メモ

- ・ 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行なってください。  
ユーザ登録 ⇨ 「本節 3 ユーザ登録をする」

### ● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、同梱されている『ファーストステップガイド  
Microsoft Windows 98 SECOND EDITION』をご覧ください。

## ② Windows 2000 のセットアップ

Windows 2000 のセットアップでは、次のことを行います。

- マイクロソフト 使用許諾契約書（Windows のライセンス）への同意  
マイクロソフト 使用許諾契約書の内容をお読みになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、[同意する] を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- ユーザー情報の登録  
名前、会社名または組織名（省略可能）を登録します。
- コンピュータ名の指定  
使用するコンピュータ名と Administrator のパスワードを入力します。  
コンピュータ名の付けかたに関しては、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 日付と時刻の設定  
[日付と時刻の設定] 画面でパソコンの日付を時刻を設定します。セットアップ後に変更することが可能です。
- ネットワークの設定  
ワークグループまたはドメイン名の設定を行います。  
ネットワークの設定は、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。



お願い

- ・ Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。  
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。  
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守が受けられなくなります。

## 2章

電源の入れかたと切りかた

## ● セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行なってください。



お願い

- ・ 初めて電源を入れると、セットアップイメージが正しいかを確認するために、「CHKDSK」が実行されます。  
ファイルシステムの異常が検出されたわけではありませんので、問題なくご使用いただけます。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

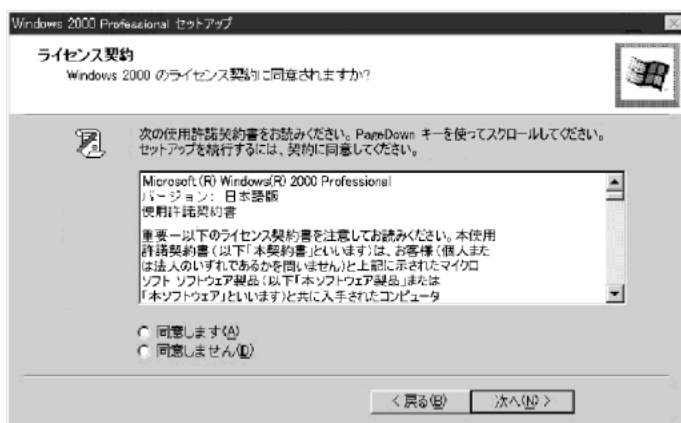


## 1 【次へ】 ボタンをクリックする

【ライセンス契約】 画面が表示されます。

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックするか、[PageUp] キー／[PageDown] キー（109A キーボードの場合）、または [Fn] + [PgUp] キー／[Fn] + [PgDn] キー（テンキー付き小型キーボードの場合）を使って、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



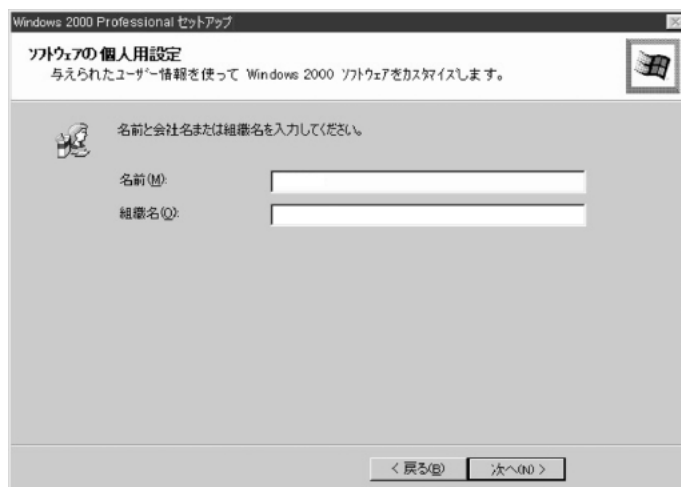
## 2 画面下部の【同意します】をチェックして【次へ】 ボタンをクリックする



メモ

・【同意しません】を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

【ソフトウェアの個人用設定】 画面が表示されます。



### 3 名前と組織名を入力する

名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後 **[Tab]** キーを押します。



メモ

- ・日本語入力システムが起動しています。  
ひらがなや漢字の入力のしかた  
標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。  
例：“なかた” または “中田” と入力する場合

#### 1 **[N][A][K][A][T][A]** とキーを押す

“なかた” と表示されます。入力ミスをした場合は、**[BackSpace]** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

#### 2 ひらがなのままでよい場合は、**[Enter]** キーを押す

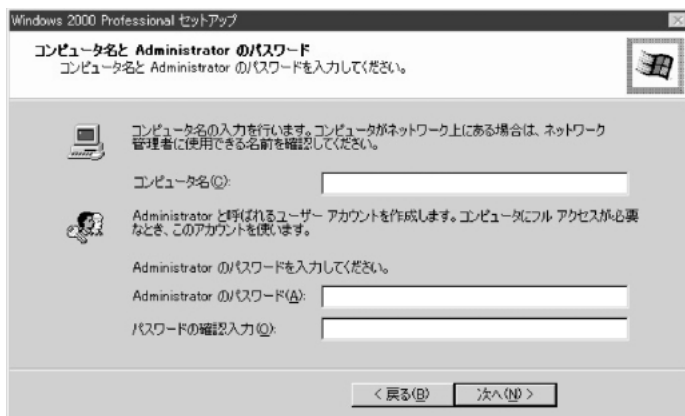
“なかた” で確定されます。

漢字に変換する場合は **[Space]** キーを押し、目的の漢字が表示されたら、**[Enter]** キーを押す

**[Space]** キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。**[Enter]** キーを押すと、選択した漢字で確定します。

### 4 [次へ] ボタンをクリックする

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示されます。



### 5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名の付けかたに関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには半角の英数文字および記号を使用することができます。



お願い

- ・パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。  
例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

## 6 [次へ] ボタンをクリックする

[日付と時刻の設定] 画面が表示されます。



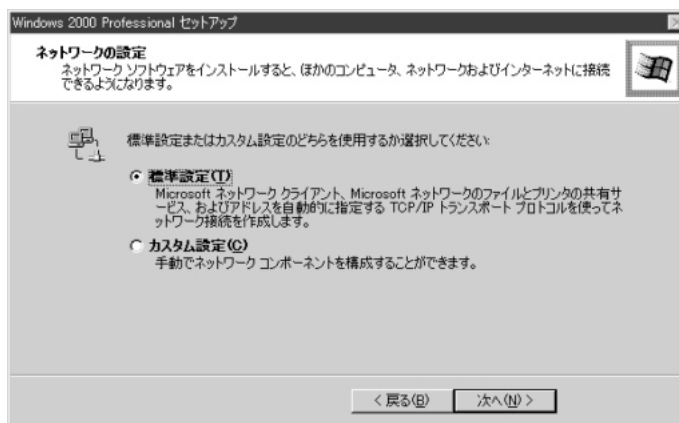
## 7 [日付と時刻] の設定をする

日付と時刻を確認します。

タイムゾーンで「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

## 8 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワークの設定] 画面が表示されます。



## 9 ネットワークの設定をする

ネットワークの設定はネットワーク管理者にお問い合わせください。  
標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。



メモ

- ・標準設定：Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、アドレスを自動的に指定する TCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。
- ・カスタム設定：手でネットワークコンポーネントを構成することができます。

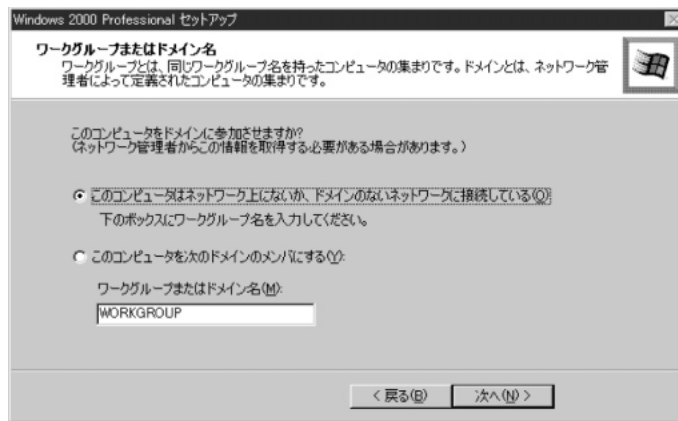


お願い

- ・お使いのネットワーク環境によって設定が異なりますので、ネットワークの設定は必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 10 [次へ] ボタンをクリックする

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示されます。



## 11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメイン名の設定はネットワーク管理者にお問い合わせください。  
ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。

選択後、[ワークグループまたはドメイン名] にワークグループ（ドメイン）名を入力してください。



お願い

- ・お使いのネットワーク環境によって設定、およびワークグループ（ドメイン）名が異なります。必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。



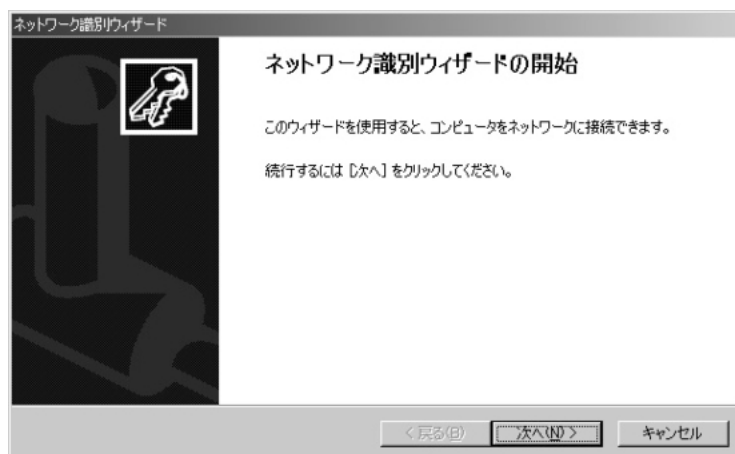
## 12 [次へ] ボタンをクリックする

設定の保存後、[Windows 2000 セットアップウィザードの完了] 画面が表示されます。



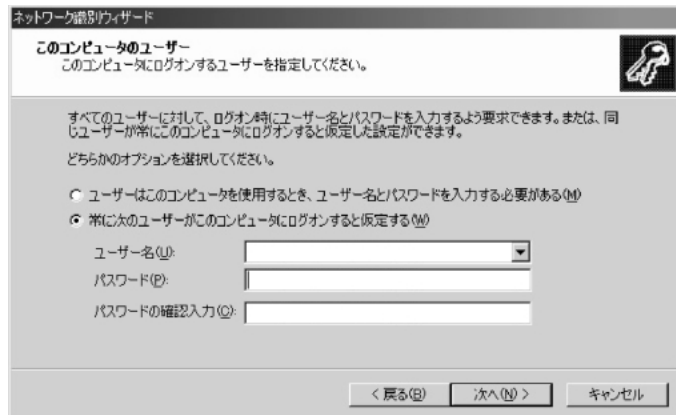
## 13 [完了] ボタンをクリックする

再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの開始] 画面が表示されます。ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。



## 14 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。



## 15 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

- 「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」  
..... 指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。
- 「常に次のユーザーがコンピュータにログオンすると仮定する」  
..... 指定したユーザで自動的にログオンします。  
ここで指定できるユーザは手順3で入力した名前、あるいは Administrator です。  
▼ボタンをクリックして選択してください。

## 16 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。

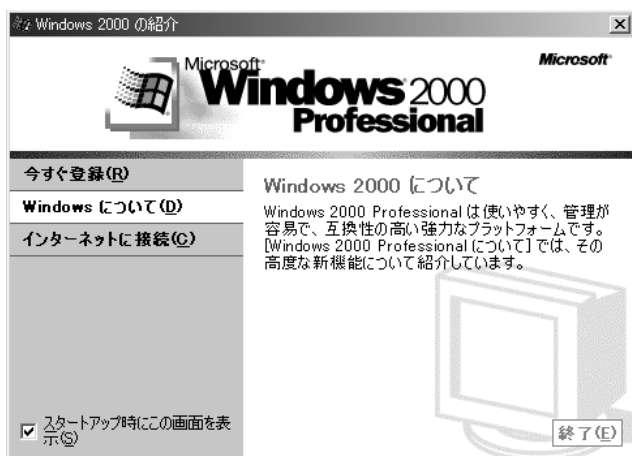


## 17 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000 のセットアップを完了しました。

手順 15 で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…」を選択した場合、[Windows ヘログオン] 画面が表示されます。Administrator のパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックすると、Administrator でログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。

手順 15 で「常に次のユーザーがコンピュータに…」を選択した場合、指定されたユーザー (Administrator または例：中田) で自動的にログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。



(表示例)



メモ

- ・ [Windows 2000 の紹介] の下部にあるチェックボックス (スタートアップ時にこの画面を表示) をクリックしてチェックを解除すると、次に Windows 2000 が起動したときは [Windows 2000 の紹介] は表示されません。
  - ☞ [Windows 2000 の紹介] 画面を再表示する方法 ☞ 『Windows 2000 のヘルプ』
- ・ ご購入時は、次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
  - C ドライブ：NTFS システム
- ・ 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行なってください。
  - ☞ ユーザ登録 ☞ 「本節 3 ユーザ登録をする」

## ● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、『マイクロソフト ウィンドウズ 2000 プロフェッショナル クイックスタートガイド』、または [スタート] - [ヘルプ] をクリックして、『Windows 2000 のヘルプ』をご覧ください。

## 3 ユーザ登録をする

東芝へのユーザ登録およびマイクロソフト社へのユーザ登録は必ず行なってください。登録はそれぞれ行う必要があります。登録を行わないと、今後のサポートを受けられない場合があります。

インターネットをご利用になるには、プロバイダとの契約が必要です。

LAN を使ってインターネットをご利用になる場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

### ● 東芝へのユーザ登録

同梱されている登録はがき、またはインターネットで登録できます。

#### インターネットで登録する場合

インターネットに接続するための設定を行なった後、次のアドレスを入力し、表示された画面から登録を行う

<http://www5.toshiba.co.jp/tpmc/nkhh.htm>

### ● マイクロソフト社へのユーザ登録

同梱されている登録はがきで登録できます。

また、インターネットでも登録できます。

#### インターネットで登録する場合

インターネットに接続するための設定を行なった後、次のように登録します。

##### ● Windows 98 の場合

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [Windows へようこそ] で [今すぐ登録] をクリックする

##### ● Windows 2000 の場合

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [はじめに] で [今すぐ登録] をクリックする



# 3 電源の切りかた

電源を切る方法はシステムによって異なります。  
お使いのシステムを確認のうえ、次の手順に従って電源を切ってください。

## ● 電源切断時のお願い

- 電源を切ったあと、もう 1 度電源を入れる場合は、5 秒以上たってから入れてください。5 秒以上経過していない場合は、誤動作することがあります。
- アプリケーションソフトが起動しているときは、終了処理を行なってシステムに戻してください  
⏏ アプリケーションソフトの終了 ⇨ 『各アプリケーションソフトに付属の説明書』
- システムの異常などで強制的に電源を切りたい場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けてください。電源が切れます。その際、データは消失する可能性があります。

## 1 Windows 98 の電源の切りかた

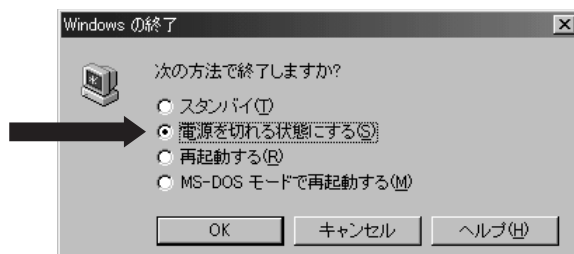
- 1 HDD アクセスランプ 、CD アクセスランプ  が消えていることを確認する

CD がセットされている場合は、イジェクトボタンを押して取り出してください。

- 2 [スタート] ボタンをクリックし①、[Windows の終了] をクリックする②  
[スタート] メニューの項目は、あらかじめインストールされているアプリケーションやお客様の設定により異なる場合があります。





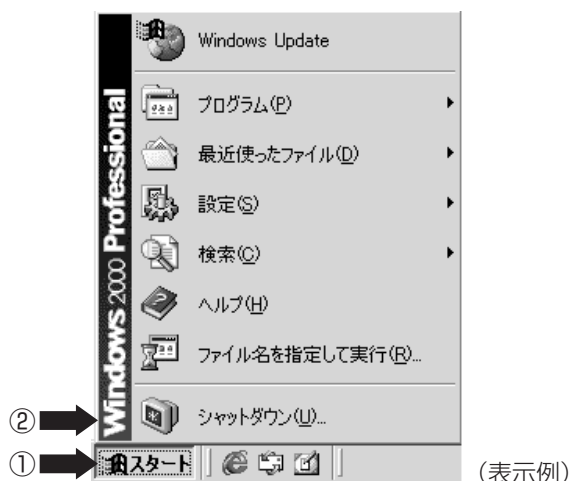
- 3 [電源を切れる状態にする] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする



- 4 ディスプレイなどの本装置に接続している周辺機器の電源を切る

## ② Windows 2000 の電源の切りかた

- 1 HDD アクセスランプ 、CD アクセスランプ  が消えていることを確認する  
CD がセットされている場合は、イジェクトボタンを押して取り出してください。
- 2 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②  
[スタート] メニューの項目は、あらかじめインストールされているアプリケーションやお客様の設定により、異なる場合があります。



(表示例)

- 3** [Windows のシャットダウン] 画面で、ドロップダウンリストから [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする



- 4** ディスプレイなどの、本装置に接続している周辺機器の電源を切る



# 4 省電力機能について

## 1 省電力機能について

省電力機能とは、パソコンのシステム、ハードディスクドライブ、ディスプレイなどを省電力モードにして消費電力を抑制する機能です。

省電力モード中は、次の状態になります。



お願い

- ・省電力モードでも一定の電力を消費しています。長時間使用しない場合は、1度省電力状態を解除してから Windows を終了してください。

省電力モード	本体の 電源ランプ 	ディスプレイの 電源表示ランプ	システム/ アプリケーション
システムがスタンバイのとき	緑色に点滅	オレンジ色に点灯	停止する
システムが休止状態のとき (Windows 2000のみ)	消灯	オレンジ色に点灯	停止する
ディスプレイが省電力モードのとき	緑色に点灯	オレンジ色に点灯	停止しない
ハードディスクドライブが省電力モード のとき	緑色に点灯	緑色に点灯	停止しない

本装置にあらかじめインストールされている Windows には、省電力機能が用意されています。設定されている情報に従って、省電力機能を作動させることができます。ここでは、本装置と Windows の省電力機能について簡単に紹介します。



メモ

- ・ディスプレイの電源表示ランプの状態は、ディスプレイにより異なります。

## 2 章

電源の  
入れかた  
と切りかた

## ② 省電力モードについて

本装置にある省電力モードとその動作は次のとおりです。

ディスプレイ	画面表示が消えます。
ハードディスクドライブ	モータの回転を停止します。
モデム接続 (インターネットへの接続)	切断します。
LAN接続 (ネットワークへの接続)	切断します。
PCカード	停止します。
USB対応機器	停止します。 キーボード、マウスも停止します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器	停止します。



メモ

・接続している PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器によっては正常にスタンバイ状態に移行しない、またはスタンバイ状態から通常モードへ復帰しない場合があります。動作に問題が生じる場合は BIOS セットアップの [Power Management Setup] で [ACPI Standby State] を [S1/POS] に設定してください。

BIOS セットアップ ➡ 「5 章 BIOS セットアップについて」

### ● スタンバイ

本装置の消費電力を抑制します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。また、ネットワークに接続していない場合は時間がかかることがあります。

### ● 休止状態 (Windows 2000)

本装置の消費電力を最小限に抑制します。休止状態に移行する直前の状態をハードディスクに保存します。通常モードへ復帰するとき、休止状態に移行する直前の状態を再現します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。休止状態に移行させるには、あらかじめ設定が必要です。

### 3 省電力モードへの移行 (Windows 98)

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モード（スタンバイ）に移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

## 2 章

電源の入れかたと切りかた

## ● システムの省電力機能

Windows 98 のシステムの省電力機能には、スタンバイモードがあります。

### ● スタンバイモード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源の管理] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源の管理のプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する

初期値は [25 分後] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。



・システムをスタンバイモードにすると、モデム接続、LAN 接続は切断され、取り付けられている PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE 1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムのスタンバイモードに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

- キーボードのスリープスイッチを押す

\* 109A キーボードの場合のみ

- [スタート] メニューからの実行

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[Windows の終了] をクリックする
- ② [スタンバイ] をクリックし、[OK] ボタンをクリックする

- 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイモードに移行させることができます。電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

電源スイッチを押してスタンバイモードに移行させるには、[コントロールパネル] の [電源の管理] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] に設定しておいてください。初期値は [シャットダウン] です。

## ディスプレイの省電力機能

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源の管理] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源の管理のプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選択する

初期値は [15 分後] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。

## ハードディスクドライブの省電力機能

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源の管理] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源の管理のプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する

初期値は [20 分後] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。

## 4 省電力モードへの移行 (Windows 2000)

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モードに移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

### ● システムの省電力機能

Windows 2000 のシステムの省電力機能には、スタンバイモードと休止状態があります。

#### ● スタンバイモード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する

初期値は [25 分後] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。



メモ

・システムをスタンバイモードにすると、モデム接続、LAN 接続は切断され、取り付けられている PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムのスタンバイモードに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

#### ● キーボードのスリープスイッチを押す

＊ 109A キーボードの場合のみ

キーボードのスリープボタンを押してスタンバイモードに移行させるには、[コントロールパネル] の [電源オプション] の [詳細] タブにある [コンピュータのスリープボタンを押したとき] で [スタンバイ] に設定しておいてください。初期値は [スタンバイ] です。

#### ● [スタート] メニューからの実行

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] をクリックする
- ② [スタンバイ] をクリックし、[OK] ボタンをクリックする

#### ● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイモードに移行させることができます。電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

電源スイッチを押してスタンバイモードに移行させるには、[コントロールパネル] の [電源オプション] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] に設定しておいてください。初期値は [スタンバイ] です。

## ● 休止状態



メモ

- ・ 休止状態を実行するには、あらかじめ [電源オプションのプロパティ] の [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックして [OK] ボタンをクリックしてください。初期値では、チェックされています。

### 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする

### 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システム休止状態] で時間を選択する

初期値は [なし] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。



メモ

- ・ システムを休止状態にすると、モデム接続、LAN 接続は切断され、取り付けられている PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムの休止状態に移行させることもできます。

操作方法是次のとおりです。

#### ● キーボードのスリープスイッチを押す

##### \* 109A キーボードの場合のみ

キーボードのスリープボタンを押して休止状態に移行させるには、[コントロールパネル] の [電源オプション] の [詳細] タブにある [コンピュータのスリープボタンを押したとき] で [休止状態] に設定しておいてください。初期値は [スタンバイ] です。

#### ● [スタート] メニューからの実行

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] をクリックする
- ② [休止状態] をクリックし、[OK] ボタンをクリックする

#### ● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによって休止状態に移行させることができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

電源スイッチを押して休止状態に移行させるには、[コントロールパネル] の [電源オプション] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [休止状態] に設定しておいてください。初期値は [スタンバイ] です。

## ● ディスプレイの省電力機能

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選択する  
初期値は [15 分後] です。  
省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。

## ● ハードディスクドライブの省電力機能

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する  
初期値は [20 分後] です。  
省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。

## 5 省電力モードからの復帰

### ● スタンバイモードからの復帰

システムのスタンバイモードから復帰するには、次の操作を行なってください。

- 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイモードから復帰させることができます。  
電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので電源スイッチは短く押してください。

ディスプレイまたはハードディスクドライブのスタンバイモードから復帰するには、次の操作を行なってください。

- マウスを操作する
- キーボード入力をする

### ● 休止状態からの復帰

休止状態から復帰するには、次の操作を行なってください。

- 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによって休止状態から復帰させることができます。  
電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので電源スイッチは短く押してください。



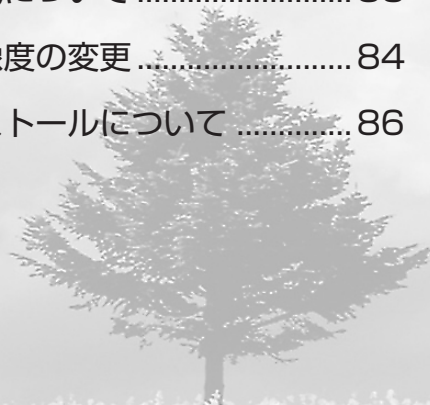


# 3

## システム機能の説明

本章では、システムの機能について説明しています。

- 1** 日本語入力システム MS-IME について ..... 80
- 2** インジケータ領域について ..... 83
- 3** ディスプレイ解像度の変更 ..... 84
- 4** ドライバのインストールについて ..... 86



## 1 MS-IME ツールバーの表示

本製品には日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。

MS-IME のバージョンはお使いになるモデルによって異なります。

MS-IME2002 : すべてのシステムのアプリケーションモデル

MS-IME2000 : Windows 2000 モデル

MS-IME98 : Windows 98 モデル

MS-IME のツールバーは次のとおりです。

### ● MS-IME2002 ツールバー




### ● MS-IME2000 / MS-IME98 ツールバー




ツールバーの各ボタンで入力文字種の選択や MS-IME の設定、ヘルプの起動などが行えます。

ツールバーが表示されていない場合は、次の手順で表示することができます。

### ● MS-IME2002 の場合

- ① タスクバーの日本語アイコン  をクリックする  
メニューが表示されます。
- ② [言語バーの表示] をクリックする  
MS-IME のツールバーが表示されます。

### ● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① タスクバーの日本語入力インジケータ  (MS-IME 日本語入力システムアイコン) をクリックする  
メニューが表示されます。
- ② [ツールバーを表示] をクリックする  
MS-IME のツールバーが表示されます。

ツールバーが表示されている状態で上記メニューの [ツールバーを表示] をもう 1 度クリックすると、MS-IME のツールバーは画面から消えます。

## ② 入力文字種を選択

入力する文字種を選択は、次のように行います。まず、MS-IMEのツールバーの[入力モード] ボタンをクリックすると文字の種類を選択するメニューが表示されます。ここでは、[ひらがな] にマウスポインタを合わせ、クリックします。ツールバーの[入力モード] ボタンは、[あ] に変わり、全角ひらがな入力が可能になります。

### ● MS-IME2002 の場合



### ● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合



### 3 MS-IME ツールバーの使用方法

MS-IME の詳しい使用方法は、次の手順でヘルプ画面を表示し、知りたい項目をクリックしてお読みください。

#### ● MS-IME2002 の場合

##### 方法 1

- ① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックする



- ② [Microsoft (R) IME スタンダード 2002] - [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

##### 方法 2

- ① ツールバーの [ツール] ボタンをクリックする



- ② [ヘルプ] - [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

##### 方法 3

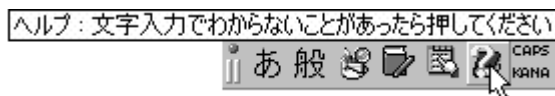
- ① ツールバーの [入力方式] ボタンをクリックする



- ② [ヘルプ] - [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

#### ● MS-IME2000 / MS-IME98 の場合

- ① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックする





- ② [目次とキーワード] をクリックする  
ヘルプ画面が表示されます。

## ② インジケータ領域について

ここでは、タスクバーインジケータ領域と日付と時刻の設定について簡単に説明します。


### ① 日本語入力インジケータ

MS-IME2000 / MS-IME98 の場合、タスクバーに日本語入力インジケータ  が表示されます。

日本語入力インジケータ  をクリックすると、MS-IME ツールバーの表示 / 非表示、日本語入力オン / オフの切り替えを行うことができます。

 使用方法について  「本章 1 日本語入力システム MS-IME について」


### ② 音量インジケータ

音量インジケータ  をクリックすると、本装置に接続されたスピーカの音量を設定することができます。なお、ダブルクリックすると「ボリュームコントロール」の画面が表示されて、より詳細な設定ができます。

### ③ 日付と時刻の設定

タスクバー右端の時刻の部分を実ダブルクリックすると、日付と時刻の設定を行うことができます。

### ④ 画面インジケータ (Windows 98 モデル)

画面インジケータ (  ) をクリックすると、ディスプレイの解像度を変更することができます。画面インジケータは、Windows 2000 モデルでは、表示されません。なお、ダブルクリックすると「画面のプロパティ」の画面が表示されて、より詳細な設定を行うことができます。

 「画面のプロパティ」でディスプレイ解像度を変更する

 「本章 3 ディスプレイ解像度の変更」

# 3

## ディスプレイ解像度の変更

ここでは、ディスプレイ解像度や表示できる色数を変更する方法を説明します。

### Windows 98 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

- 2 [画面] アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。



・タスクバーの画面インジケータ をダブルクリックしても、同様の画面が表示されます。



(表示例)

- 3 [設定] タブをクリックする

[色]、[画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(表示例)

- 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。



## Windows 2000 の場合

### 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

### 2 [画面] アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。



(表示例)

### 3 [設定] タブをクリックする

[画面の色] または [画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(表示例)

### 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

# 4

## ドライバのインストールについて

ドライバのインストールについては、『各ドライバの説明書』に従ってインストールしてください。

### Windows 98 の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっているとき、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は、次の手順でインストールを継続してください。

#### 1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする

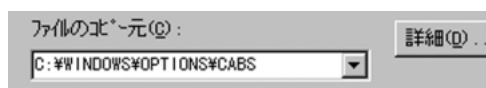
[ファイルのコピー] 画面が表示されます。



(表示例)

#### 2 ファイルのコピー元を入力する

[ファイルのコピー元(C):] に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力します。



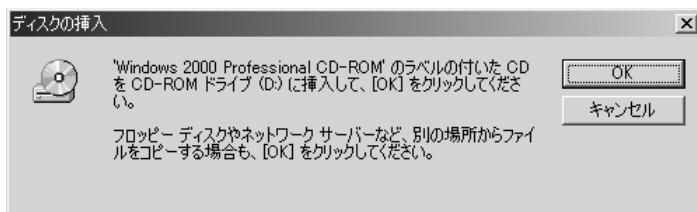
#### 3 [OK] ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

以上の操作を行なっても正しくインストールできない場合は、ドライバの提供元にお問い合わせください。

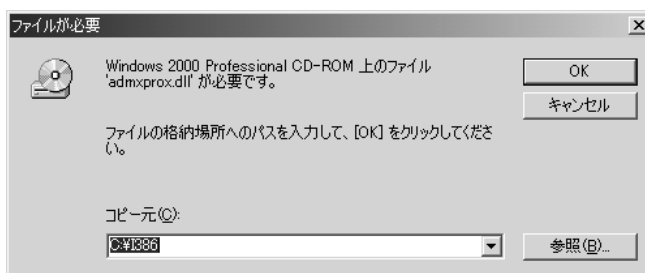
## ● Windows 2000 の場合

Windows コンポーネントの追加や、ドライバのインストールを行なっているとき、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

- 1 **[ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする**  
[ファイルが必要] 画面が表示されます。



- 2 **コピー元を入力する**  
コピー元に、[C:¥i386] と入力します。
- 3 **[OK] ボタンをクリックする**  
メッセージに従ってインストールを継続してください。



# 4

## 機器の拡張について

本章ではパソコン本体に周辺機器や増設メモリなどを取り付ける方法について説明します。  
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

<b>1</b>	作業を始める前に .....	90
<b>2</b>	モデムの接続 .....	92
<b>3</b>	LAN の接続 .....	95
<b>4</b>	PC カード .....	101
<b>5</b>	USB 対応機器の接続 .....	106
<b>6</b>	フロッピーディスクドライブ .....	107
<b>7</b>	プリンタの接続 .....	110
<b>8</b>	i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続 ....	111
<b>9</b>	マイクの接続 .....	114
<b>10</b>	スピーカの接続 .....	115
<b>11</b>	本体カバーの取りはずし／取り付け .....	116
<b>12</b>	増設メモリ .....	119
<b>13</b>	内蔵バッテリーの交換 .....	123

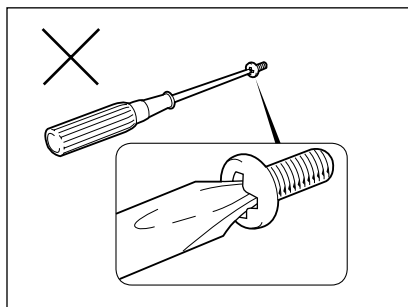
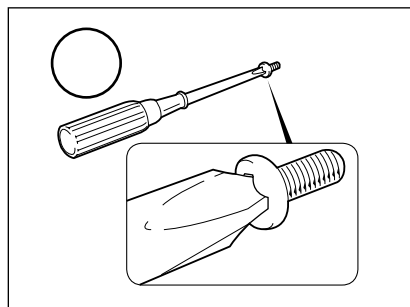
# 1 作業を始める前に



- ・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

## ● 作業前の注意事項

- 湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。
- 温度範囲は 10 ～ 35℃、湿度範囲は 20 ～ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。
- 各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。
- 取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行なってください。
- 作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。  
内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- コネクタの接続、増設メモリの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。  
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 本体の電源コードの接続は、① AC アダプタ、② プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、① プラグ、② AC アダプタの順に行なってください。

**注意**

- ・この章で説明されている「11 節 本体カバーの取りはずし／取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて 1 分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋の使用をおすすめします。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

## 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ - (マイナス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

## オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

🔊 設定について

➡ 「5 章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

## ② モデムの接続

### ① モジュラーケーブルの接続

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを使って2線式の電話回線に接続します。

本製品の内蔵モデムは、日本国内でのみ使用できます。

内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。

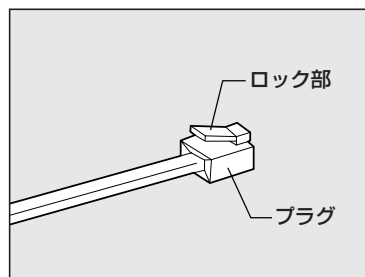
通信先のプロバイダが V.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

### ● 取り付け



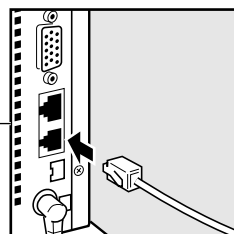
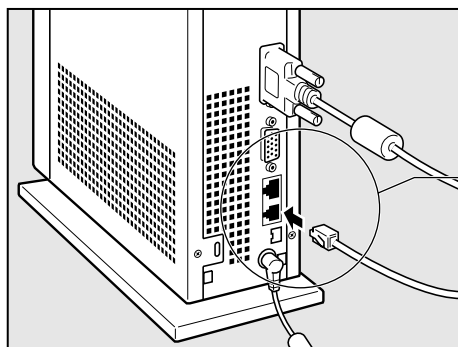
お願い

・モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行なってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



#### 1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を手前に向けて差込んでください。



#### 2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN 回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ (TA) またはダイヤルアップルータのアナログポートへ接続してください。



注意

- ・内蔵モデムは日本国内で使用してください。
- ・内蔵モデムは一般電話回線 (アナログ回線) に接続して使用してください。デジタル回線 (ISDN 回線など) には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機 (PBX) へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。





お願い

- ・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
- ・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。



メモ

- ・PC カード接続、USB 接続、i.LINK（IEEE1394）接続のハードディスクドライブやCD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
  - ・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイアリングに失敗する
  - ・サウンド再生時に音飛びが発生する

## ● 取りはずし

### 1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

## ② 内蔵モデム

あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。

また、内蔵モデムを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

🔊 AT コマンドについて

Windows 98 モデル ⇨ アプリケーション & ドライバ CD-ROM を CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブにセットして表示される画面

Windows 2000 モデル ⇨ アプリケーション CD を CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブにセットして表示される画面



警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。



注意

- ・内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜いてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・電源を切った直後には、内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。内蔵モデムの取り付け／取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
- ・内蔵モデムを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

## **取り付け**

- 1** データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2** パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3** パソコン本体背面のネジ 3 本をはずし、本体カバーを取りはずす
- 4** サブボードのネジ 2 本を取りはずし、サブボードとアースケーブルを取りはずす
- 5** モデムボードとケーブルを接続する
- 6** モデムボードをパソコン本体に取り付ける
- 7** 手順 4 でははずしたサブボードとアースケーブルを取り付け、ネジ 2 本でとめる
- 8** 手順 3 でははずした本体カバーを取り付け、ネジ 3 本でとめる

## **取りはずし**

- 1** データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2** パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3** パソコン本体背面のネジ 3 本をはずし、本体カバーを取りはずす
- 4** サブボードのネジ 2 本を取りはずし、サブボードとアースケーブルを取りはずす
- 5** モデムボードからケーブルを取りはずす
- 6** モデムボードをパソコン本体から取りはずす
- 7** 手順 4 でははずしたサブボードとアースケーブルを取り付け、ネジ 2 本でとめる
- 8** 手順 3 でははずした本体カバーを取り付け、ネジ 3 本でとめる

# 3 LAN の接続

本装置には、Fast Ethernet LAN（100BASE-TX）Ethernet LAN（10BASE-T）に対応した LAN が内蔵されています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

## 1 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格（100M ビット／秒）でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5（CAT5）のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

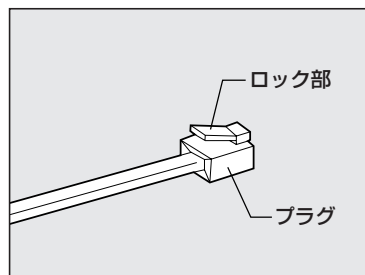
10BASE-T 規格（10M ビット／秒）でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

## 2 LAN ケーブルの接続

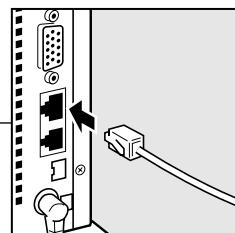
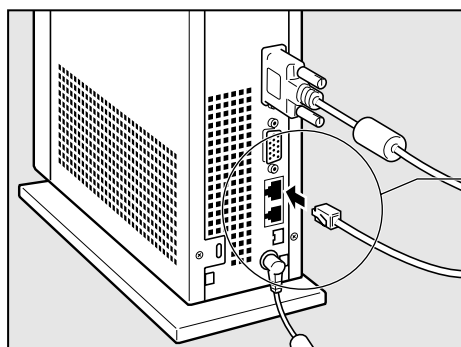


お願い

・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行なってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜く
- 5 LAN ケーブルのプラグを本体背面の LAN コネクタ ④ に差し込む  
パチンと音がするまで差し込んでください。



- 6 LAN ケーブルのもう一方のプラグを HUB（ハブ）のコネクタに差し込む  
HUB（ハブ）の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## 3 テクニカル情報

### ● Fast Ethernet ケーブル

#### 100BASE-TX

100BASE-TX では、2 組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる 100Mbps の転送をサポートしており、カテゴリ 5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TX のセグメント長は、最大 100 メートルに制限されています。

### ● Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまな Fast Ethernet 仕様をサポートする HUB が次々に発表されています。これらの HUB は大きく分けて、シェアード HUB とスイッチング HUB の 2 つのタイプがあります。EQUIUM シリーズの LAN インタフェースでは、どちらのタイプの HUB でも使用できます。

#### シェアード HUB（ハブ）

シェアード HUB を使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100Mbps のシェアード HUB の場合、ハブ上の全ノードが 100Mbps の帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアード HUB は、全車が 1 レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。

シェアード HUB の場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbps または 100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUB の場合、10BASE-T リピータの 10 倍の 100Mbps の帯域幅を提供します。

#### スイッチング HUB（ハブ）

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つことになります。

スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで利用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチング HUB は洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

## 4 Windows 98 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。ご購入時には既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



**注意**

・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows セットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

## 4 章

機器の拡張について

### ● ネットワークの設定

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ..... 他のコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル ..... コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ ..... コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス ..... このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、他のコンピュータから使えるようにします。

#### 4 「識別情報」タブで、[コンピュータ名]、[ワークグループ] をネットワーク管理者の指示に従い、設定する

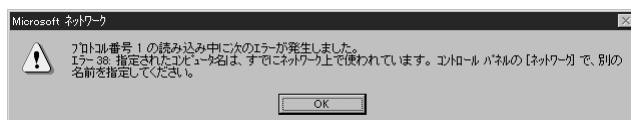


(表示例)



お願い

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値（Default、Default\_Wg）の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



## 5 [アクセスの制御] タブをクリックし、変更を行う



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

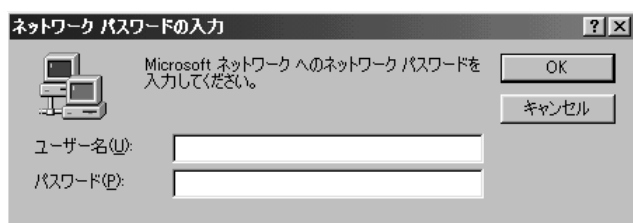
## 6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

### ● 起動時のパスワードの入力

#### 1 パソコンの電源を入れる

#### 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



(表示例)



メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

## 5 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



**注意** ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 Administrator グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックする
- 5 プロパティを選択する
- 6 ネットワーク接続の設定を行う

セットアップ時に設定した構成になっています。

本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel PRO/100 VE Network Connection  
クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント  
サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有  
プロトコル : インターネットプロトコル (TCP/IP)

### ● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrator グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [システム] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ネットワーク ID] タブを選択する
- 5 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。


変更する場合はここで再設定してください。



# 4 PC カード

本装置には、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応（Card Bus 対応含む）PC カード（別売り）を取り付けることができます。

## ● PC カードを使用する前に

- 使用できる PC カードのタイプは、TYPE II です。  
PC カードの例を次にあげます。
  - ・ SCSI アダプタカード
  - ・ スマートメディアアダプタカード
  - ・ フラッシュメモ리카ード
  - ・ Card Bus 対応カード 詳細について ⇨ 『PC カードに付属の説明書』
- PC Card Standard に準拠していない PC カードは使用できません。故障や不具合が発生するおそれがあります。
- 本装置は ZV ポートには対応していません。
- PC カードを使用しないときは、PC カードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。何も挿入されていないと、中にゴミやほこりが入り、故障の原因となることがあります。
- PC カードの裏面にはシールを貼らないでください。シールが貼られていると、カードの取り付けや取りはずしが正常にできない場合があります。また、故障の原因となることがあります。



### 注意

- ・ ホットインサクションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。  
電源を入れたまま作業を行うと、PC カードが故障するおそれがあります。
- ・ PC カードを使用中は、省電力機能を使用しないでください。スタンバイモード／休止状態への移行、通常モードへの復帰が正常に行えない場合があります。
- ・ システム起動時に PC カードスロットに PC カードを挿入している場合、PC カードを認識しなかったり、起動に時間がかかることがあります。PC カードを認識しない場合は、PC カードのイジェクトスイッチを押し、PC カードを取り出した後、もう 1 度挿入し直してください。
- ・ スタンバイモード／休止状態の時に PC カードの抜き差しを行わないでください。スタンバイモード／休止状態からの復帰後に PC カードを正常に認識しない場合があります。
- ・ PC カードを取りはずす際は、PC カードを使用停止状態にしてください。  
使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



お願い

- ・ 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。



メモ

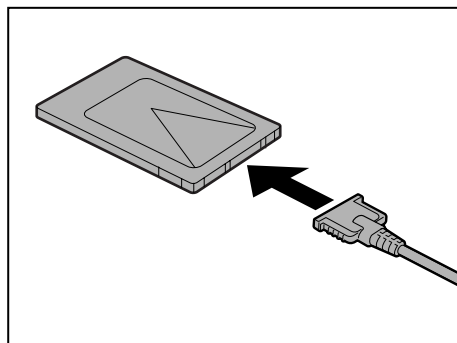
- ・ 市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。
- ・ **ホットインサクション**  
パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによってはこの機能に対応していない場合があります。
- ・ PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
  - ・ 通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤリングに失敗する
  - ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

## ● 取り付け

- 1 ホットインサクションに対応していないPCカードを取り付ける場合は、パソコン本体の電源を切る

- 2 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルを接続する必要があるカードの場合は、この作業を行なってください。

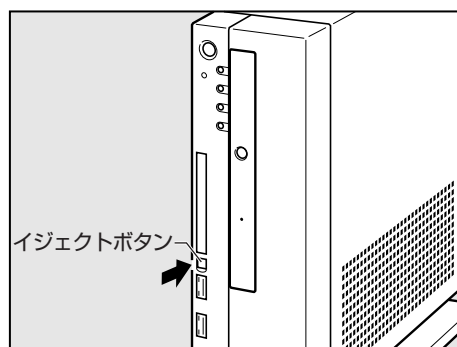


お願い

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

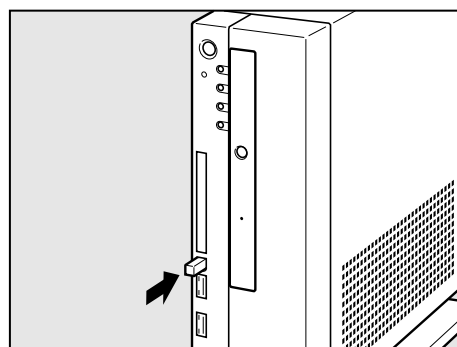
- 3 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。



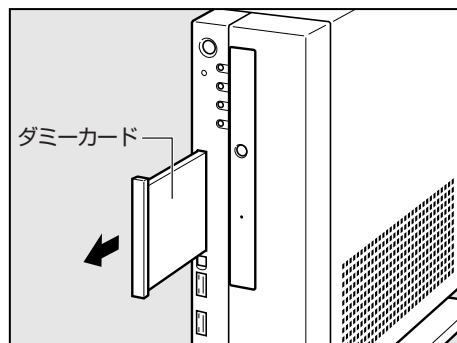
- 4 もう1度イジェクトボタンを押す

ダミーカードが少し出てきます。



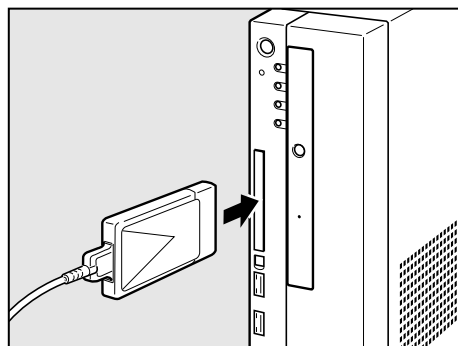
## 5 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように、保管してください。



## 6 PC カードの上面（シールが貼られている面）を右側に向け、PC カードを挿入する

カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押してください。



カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

🔧 カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PC カードに付属の説明書』

## ● 取りはずし



**注意**

・PC カードを取りはずす際は、PC カードを使用停止状態にしてください。使用停止せずに PC カードを取りはずすと、システムが致命的の影響を受ける場合があります。




お願い


・PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

## 1 PC カードの使用を停止する

### Windows 98 の場合

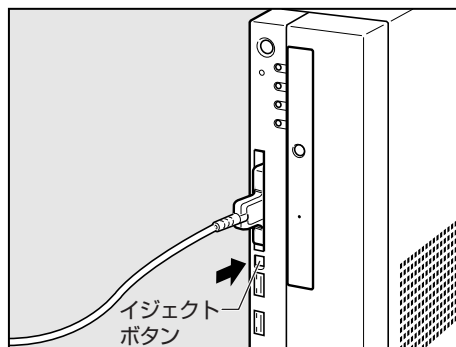
- ① タスクバーにある [PC カード] アイコン (  ) をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 「安全に取りはずせます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

### Windows 2000 の場合

- ① タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン (  ) をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 表示される画面で、停止する PC カードを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [閉じる] ボタンをクリックする

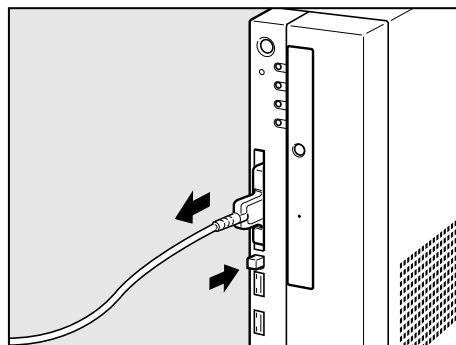
## 2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。

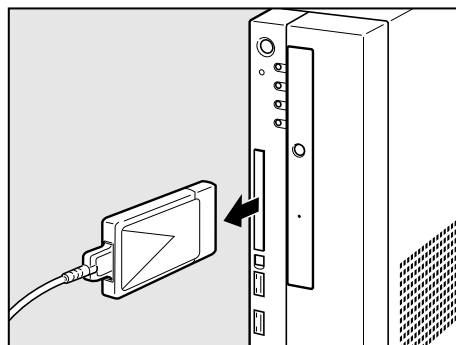


## 3 もう 1 度イジェクトボタンを押す

カードが少し出てきます。

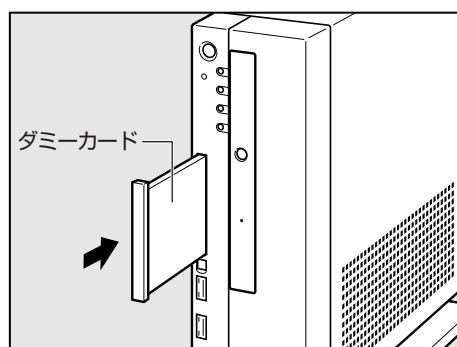


## 4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



**注意** ・PC カードは、熱を帯びている場合があります。長時間使用した PC カードを取りはずす際は、PC カードの使用を停止後、少し時間をおき、冷めてから取りはずしてください。

## 5 ダミーカードを挿入する



# 5 USB 対応機器の接続

本装置には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが4つ（本体前面に2つ、本体背面に2つ）用意されています。USB 対応機器が対応しているシステムを確認のうえ、お使いください。



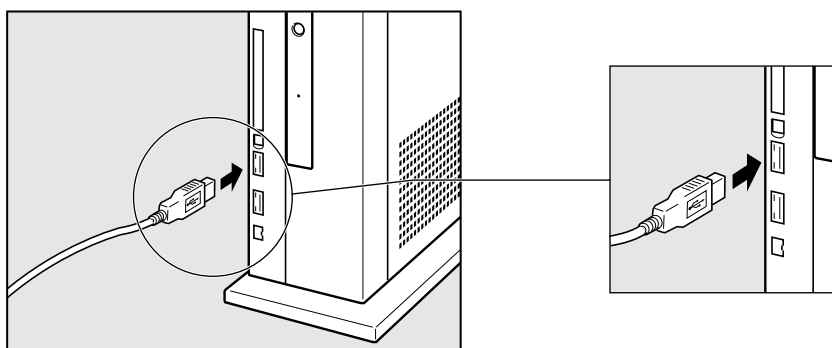
・キーボードを接続するために、USB コネクタを1つ使用します。

メモ

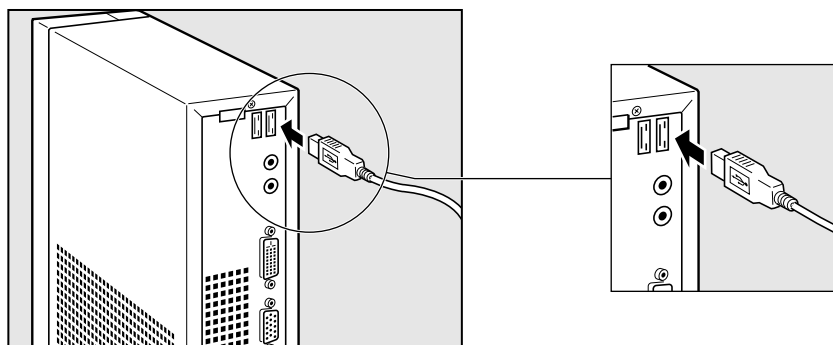
## ● 取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタ ● に差し込む  
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

### 本体前面



### 本体背面



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

手順2 が必要ない機器もあります。



お願い

- ・USB 対応の周辺機器を使用するには、システム（OS）、および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。
- ・USB 対応機器を接続したままスタンバイ機能を実行すると、復帰後に USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、パソコンを再起動してください。

📖 USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』

本装置では、USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブ（別売り）を使用できます。

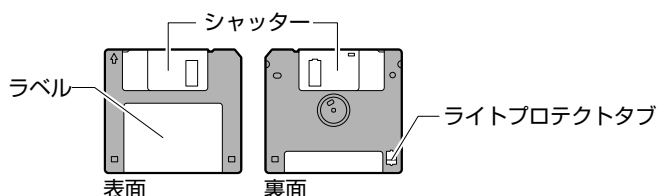


お願い

- ・フロッピーディスクドライブのFDD アクセスランプ点灯中は、データの書き込み、読み取り中です。アクセスランプ点灯中に次のことを行くと、フロッピーディスク内のデータが消失することがあります。
  - ・フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンを押す
  - ・フロッピーディスクドライブのUSB ケーブルをパソコン本体から抜く
  - ・パソコン本体の電源を切る
- ・フロッピーディスクドライブを使用しないときは、必ずフロッピーディスクを取り出しておいてください。

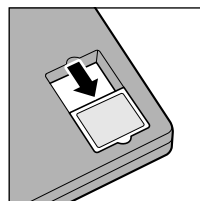
## 1 3.5 型フロッピーディスク

フロッピーディスクには、大切な情報を保護するための書き込み保護機構がついています。これにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



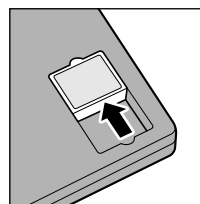
### 書き込み保護をセットするには

図のようにライトプロテクトタブを外側に移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。データの読み込みはできます。



### 書き込み保護を解除するには

図のようにライトプロテクトタブを内側に移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み込みもできます。



なお、いずれの場合も「カチッ」と音がするまでライトプロテクトタブを移動させてください。

## ● フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。

フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- シャッター部は開けないでください。また、磁性面には触れないでください。磁性面が汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。記録した内容が消失するおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に載せないでください。
- 次の範囲内の環境で保管してください。

保管温度 4～53℃

保管湿度 8～90%Rh

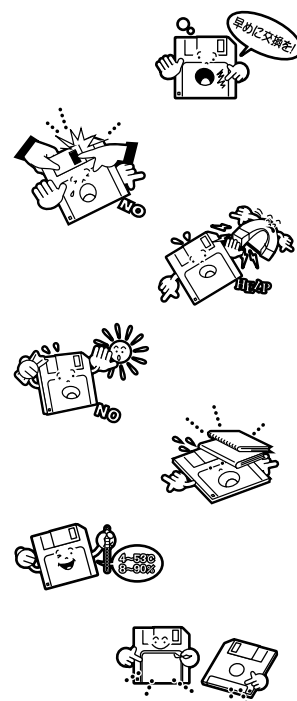
- ラベルは正しい位置に貼ってください。貼りかえるときは重ね貼りしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
- 3.5 型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。  
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

フロッピーディスクがパソコン本体のフロッピーディスクドライブに正しく挿入されていないと、次のようなメッセージ画面が表示され、フロッピーディスクの読み書きができません。

- ・ ドライブXX：にアクセスしたとき、「XX:¥にアクセスできません。デバイスの準備ができていません」などのメッセージ画面が表示される
- ・ フォーマット済みのフロッピーディスクを挿入しても、「ドライブXXのディスクはフォーマットされていません。今すぐフォーマットしますか？」というメッセージ画面が表示される

この場合は、[キャンセル] または [いいえ] ボタンをクリックして画面を閉じてください。そのあとフロッピーディスクを挿入し直して、もう1度アクセスを行なってください。





## ② フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

### ● フロッピーディスクのセット

- 1 フロッピーディスクの隅に書かれている矢印の向きに合わせて挿入する  
「カチッ」と音がするまで挿入します。  
正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

### ● フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンを押す  
フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。



お願い

・FDD アクセスランプが緑色に点灯しているときに、イジェクトボタンを押さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

# 7 プリンタの接続

## 1 プリンタの接続

### ● ネットワーク接続でプリンタを接続する

ネットワーク上のプリンタを使用する場合の設定については、ネットワークの管理者の指示に従ってください。

### ● 本体にプリンタを接続する

USB コネクタに USB 対応のプリンタを接続して使用することができます。

☞ 接続について ⇨ 「本章 5 USB 対応機器の接続」

プリンタを使用するには、設定が必要です。

詳しくは、「本節 2 プリンタ設定について」および『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

## 2 プリンタ設定について

プリンタを使用するには、ドライバのインストールが必要です。

Windows が標準でドライバを用意していないプリンタの場合、プリンタの製造元が提供するフロッピーディスクや CD-ROM などのインストールディスクが必要です。

詳しくは、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

### 1 [スタート] - [設定] - [プリンタ] をクリックする

[プリンタ] 画面が表示されます。

### 2 [プリンタの追加] をダブルクリックする

ウィザードが起動します。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

テストページを印刷する場合は、印刷する前にプリンタの電源が入っていること、および印刷の準備ができていることを確認してください。

本装置では、i.LINK (IEEE1394) コネクタ (以降、i.LINK コネクタとよびます) に i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (以降、i.LINK 対応機器とよびます) を接続できます。i.LINK 対応機器には次のようなものがあげられます。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-R/RW ドライブ など

## i.LINK 対応機器のご使用について

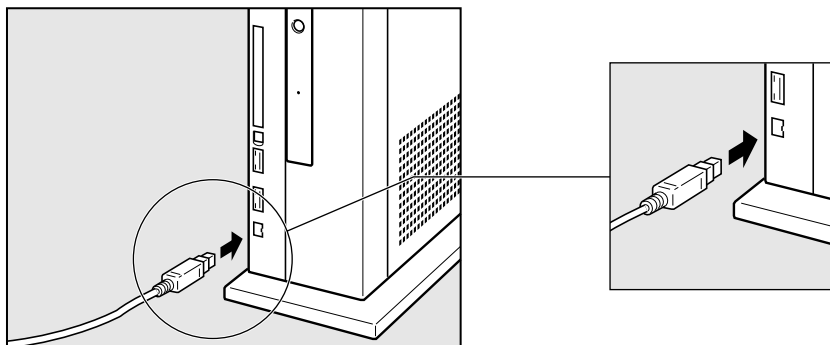
i.LINK 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ (データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ) のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラ等を使用し、データ通信を行なっている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行なってください。

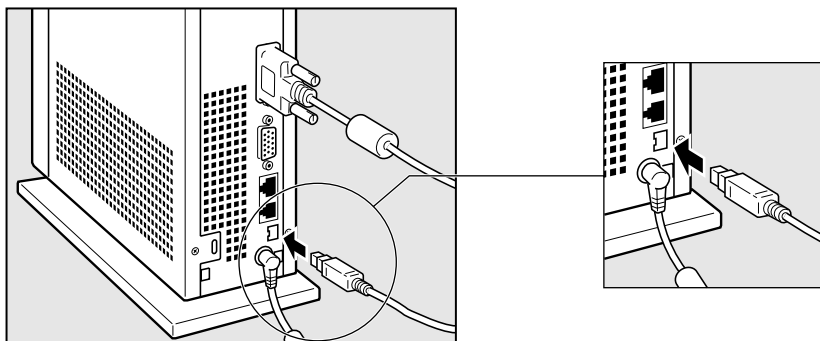
## ● 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタ  に差し込む  
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

### 本体前面



### 本体背面



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む




お願い

- ・ i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証いたしかねます。
- ・ ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・ 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- ・ 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- ・ i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしやパソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行なった場合、データの内容は保証いたしかねます。
- ・ i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。  
データの転送が中断される場合があります。

## ● 取りはずし

### ● Windows 98 の場合

- 1 タスバーにある【ハードウェアの取りはずしシステムトレイ】アイコン (  ) をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「デバイスをコンピュータから取りはずしても安全です。」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く


 i.LINK 対応機器について ⇨ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』



メモ

・ i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1 ～ 3 は必要ありません。

### ● Windows 2000 の場合

- 1 タスバーの【ハードウェアの取り外しまたは取り出し】アイコン (  ) をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

 i.LINK 対応機器について ⇨ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』




メモ

・ i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1 ～ 3 は必要ありません。

## ● i.LINK による通信

システム (OS) が同じで i.LINK コネクタがあるパソコン同士を市販の i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の i.LINK コネクタに接続する


 ネットワークの設定 ⇨ 『Windows のヘルプ』

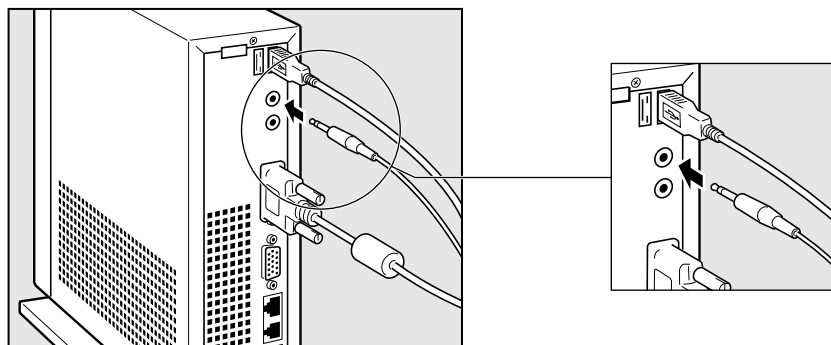


メモ

・ i.LINK コネクタが用意されているパソコンでも、機種によっては接続できない場合があります。

本装置では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、コンデンサマイクロホンのミニジャックタイプ（3.5 φ）です。

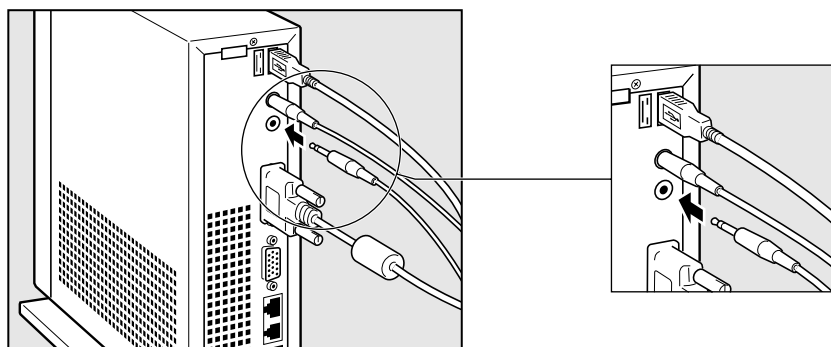
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜く
- 5 マイクのプラグを本体背面のマイク端子  に差し込む  
しっかりと奥まで差し込んでください。



# 10 スピーカの接続

本装置では、アンプ付きのスピーカ（別売り）を接続できます。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜く
- 5 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子 (≡) に差し込む  
しっかりと奥まで差し込んでください。



# 11 本体カバーの取りはずし／取り付け



- 注意**
- ・オプションの装着などを行う場合以外は、本体のカバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。
  - ・本体シャーシのアルミ板金などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずしかた、取り付けかたをまとめて説明します。

それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては 12 節より説明します。

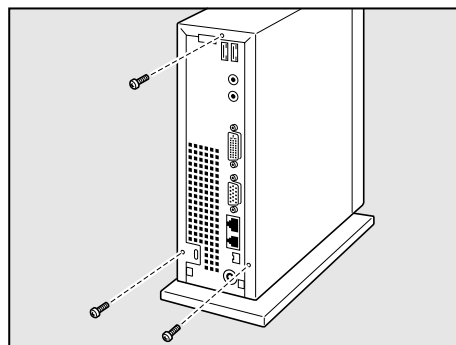
## 1 本体カバーの取りはずし

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、AC アダプタを取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

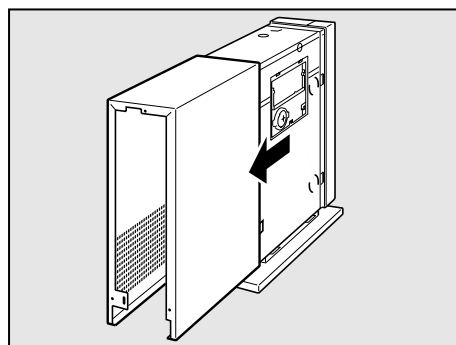


- 注意**
- ・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差し等を行うと、故障の原因となります。必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 本体背面のネジ 3 本をはずす

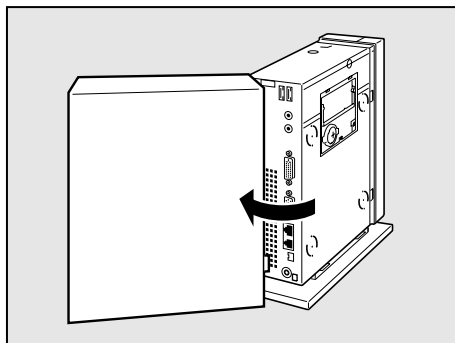


- 6 本体カバーを後方へずらす





- 7 カバーの片側を手前に引くようにして取りはずす



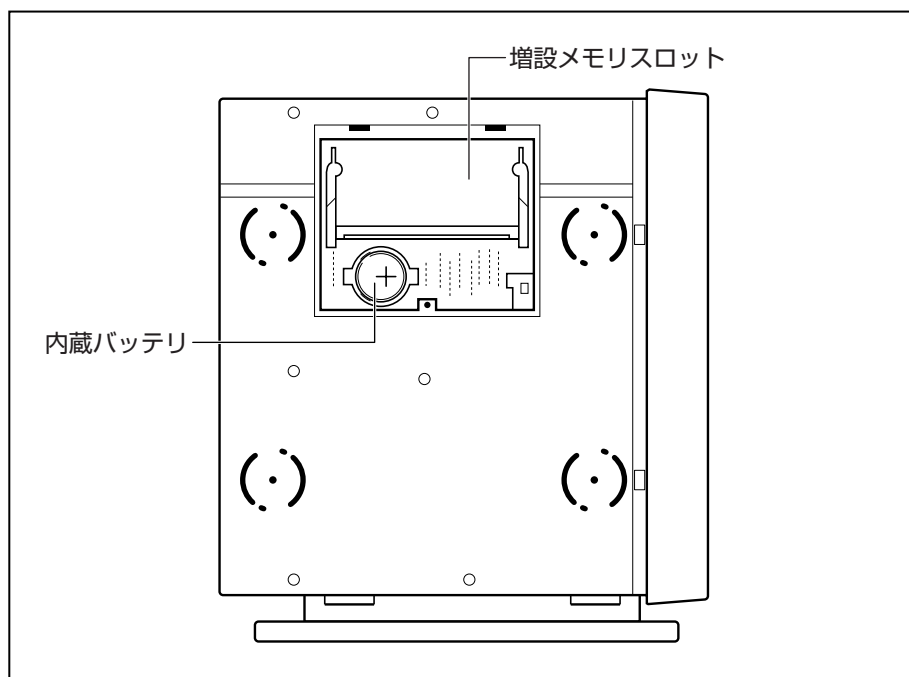
## 2 本体カバーを取りはずしたところ



**注意** ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。  
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。



左側面



増設メモリスロット、内蔵バッテリーがユーザ作業エリアです。

☞ メモリの増設について ⇨ 「本章 12 増設メモリ」

☞ 内蔵バッテリーの交換について ⇨ 「本章 13 内蔵バッテリーの交換」

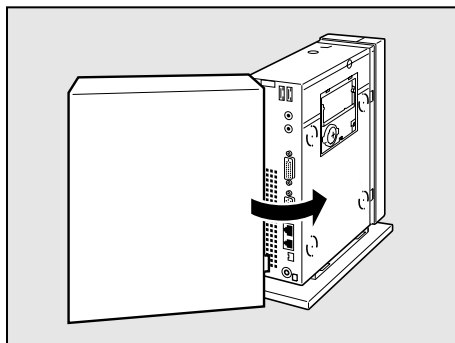


右側面

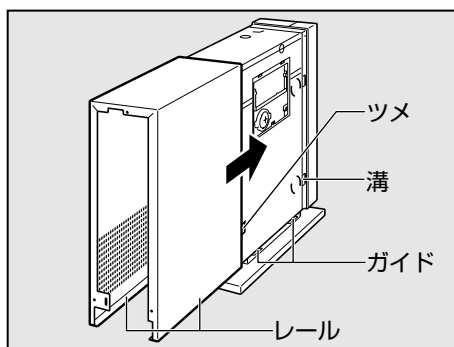
右側面はユーザ作業エリアではありません。

### ③ 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体の斜め後方から、本体カバーの片側をのせ、もう一方の側を回すようにして取り付ける

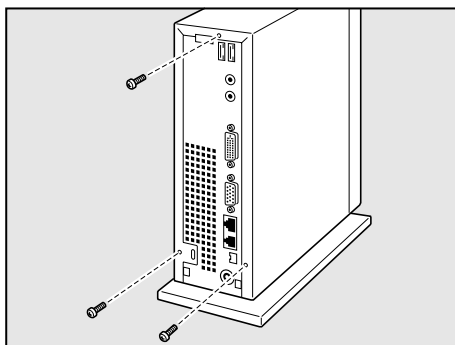


- 4 本体カバーを前方にスライドさせる  
本体カバーの左右のレールを本体下部のガイドにのるように取り付けてください。  
また、本体カバーの左右のツメを本体左右の溝に合わせてください。



**⚠ 注意** ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 5 本体背面にネジ3本を取り付け、固定する



# 12 増設メモリ



お願い

- ・必ず『増設メモリに付属の説明書』をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリは 1 枚です。
- ・増設メモリの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置は、増設メモリ（別売り）を取り付けることによって、最大 384MB までメモリを増設することができます。

本装置には次の増設メモリが取り付けられます。

- ・増設メモリ 64MB（タイプ T） 型番：PAME064T
- ・増設メモリ 128MB（タイプ T） 型番：PAME128T
- ・増設メモリ 256MB（タイプ T） 型番：PAME256T



注意

- ・メモリを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・ECC 機能はサポートしていません。

4  
章

機器の拡張について

# 1 増設メモリの取り付け

増設メモリの取り付け方法について説明します。



**注意** ・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリを破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

## 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

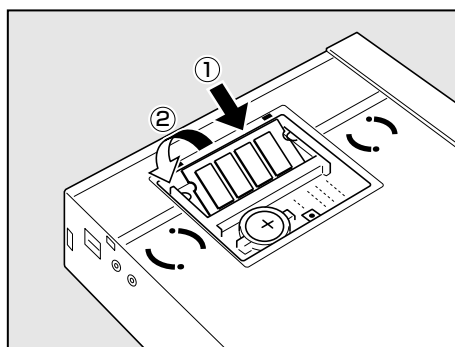
## 2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 11 本体カバーの取りはずし／取り付け」

## 3 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。

フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



**注意** ・増設メモリの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリまたは増設メモリスロットを破損する原因になります。  
・増設メモリが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリまたは増設メモリスロットを破損する原因になります。

## 4 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 11 本体カバーの取りはずし／取り付け」

以上で増設メモリの取り付けは完了です。

増設したメモリが認識されているか、次の「メモリ容量の確認」で確認してください。

## メモリ容量の確認

### 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

### 2 [システム] アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

画面は、Windows 98 の表示例です。



合計のメモリ量が  
表示されます。

(表示例)

### 3 [全般] タブの RAM の数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう 1 度正しく増設メモリの取り付けを行ってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない



メモ

- ・VRAMとしてメインメモリを使用しているの、数MB少なく表示されます。

## ② 増設メモリの取りはずし

増設メモリの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

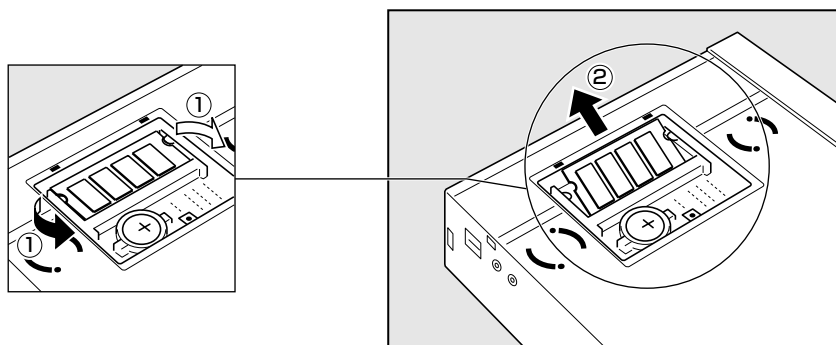
**注意** ・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱くと、増設メモリを破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

**1** 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

**2** 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 11 本体カバーの取りはずし／取り付け」

**3** 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



**4** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 11 本体カバーの取りはずし／取り付け」

増設メモリを取りはずした後、メモリ容量が正しく認識されているか、本体を起動して確認してください。

☞ メモリ容量を確認する ☞ 「本節 1-メモリ容量の確認」

# 13 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS Battery LOW



注意

- ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。  
取り扱いを誤ると、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。
  - ・充電、電極除去、分解をしない
  - ・100℃以上の加熱、焼却をしない
  - ・電池は水にぬらさない
  - ・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
  - ・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない
- リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



お願い

- ・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。  
☞「5 章 BIOS セットアップについて」
- ・本装置に使用できる内蔵バッテリーは CR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販の CR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす  
☞「本章 11 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 3 本体を静かに横にして置く

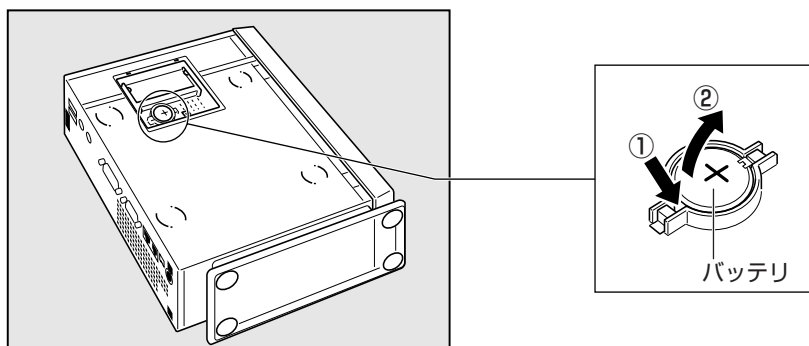


注意

- ・本体を転倒させないでください。  
衝撃や振動により、本体が故障するおそれがあります。

## 4 バッテリーの位置を確認し、バッテリーとケースのすき間にマイナスドライバを差し込んで①、バッテリーを取りはずす②

バッテリーが本体内部に入り込まないように取りはずしてください。



## 5 新しいバッテリーの (+) 側を上にして取り付ける

バッテリーが本体内部に入り込まないように取り付けてください。



お願い

- ・バッテリーの極性（+、-）をまちがわないように取り付けてください。  
+ 側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

## 6 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 11 本体カバーの取りはずし／取り付け」



お願い

- ・再起動後、BIOS セットアップを起動し、再設定してください。  
☞ BIOS セットアップについて ⇨ 「5 章 BIOS セットアップについて」